

令和2年度事業報告

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

公益社団法人 自彊術普及会

I 【概要】

令和2年度は、年初に発生した新型コロナウイルス感染症パンデミックによる感染拡大の中、緊急事態宣言発出を伴う第1波、第2波、第3波の襲来に翻弄された1年間であった。

1. 法人の意思決定機関である社員総会、理事会の開催も困難を極めた。

緊急事態宣言下の5月14日、北区王子の`北とぴあ`で予定された決算理事会は会場出席理事6名、電話会議での出席理事8名、監事1名により本部第二道場において開催された。また6月10日、新宿区の京王プラザホテルで予定された第10回通常総会も正会員の多くが高齢であり、また参集に伴うリスクに鑑み、会場出席の自粛と「書面による議決権行使」に対するご理解とその徹底をお願いし無事に開催することが出来た。しかし、2004年より続いた京王プラザホテルでの開催ができず、また同時に予定されていた公開講演会、懇親会も中止となり会員各位の落胆は如何許りか、と残念なことであった。また、本年2月9日、3月3日に予定された予算理事会、予算総会もそれぞれ本部3階会議室及び第二道場2階での開催となった。異常事態の中、正会員各位のご理解とご協力を頂戴致しましたこと、心より感謝申し上げます。

2. 会員数の減少

長引く教場活動の休止、諸事業活動の停止など先の見えない混迷の中、当初危惧された会員数の減少も約5,400名(約9.4%)程度にとどまり、法人運営に対する致命的な脅威となることはなかった。これは指導者各位の受講生との繋がりやの深さと、自彊術が免疫力や自己治癒力の強化に大きな効用が期待できること、また会員の皆様にとって生活の一部として位置づけられていることが大きな理由であったものと考えている。特に指導者各位の会場確保が困難の中での様々な工夫と感染状況に対応した慎重な判断による普及活動には、心よりの敬意を申し上げます。

3. 本部道場における講習会等

実施については、東京都の感染状況を慎重に見極めながら、またマスク着用、検温、手指消毒、3密回避、換気の感染防止大原則の厳守を前提に、毎回終了後にロビー、更衣室、トイレ、洗面所、階段、エレベーターを含む全施設の消毒を徹底し、授業実施を要望する受講生の期待に応える努力が続けられた。ご協力頂いた講師、受講生、本部職員に感謝申し上げます。

4. 会員の感染報告

東海地方で1件の罹患報告があったが、幸いにも症状は軽く心配することがないほどで治癒退院したとのことである。教場での自彊術を楽しみに実践し、日頃より自己免疫力を高めていたことが功を奏したのではないかと考えている。

5. 私達の務め

コロナ禍といえども長い歴史の中のたまたまの出来事であり、時の流れの中にいずれは融け去る

出来事に過ぎない。私達は自彊術により身に着けた平常心と自彊の精神を支えに困難な今を乗り越え、新しい世の中へと導く力を生み出す核となり、自身の健康のみに気を配ることなく、他者への目配り、気配りをもとに普及活動に努め、世の小さな灯となりたいものである。暗中模索、試行錯誤での業務遂行に向き合い、また普及活動に努力して戴いた総支部長、支部長、教場指導者、本部職員各位に心よりの感謝を申し上げる。

会 員	令和2年3月末	令和3年3月末	増 減
正 会 員	6 4 8	6 3 4	- 1 4
賛助会員	5 6, 3 7 5	5 0, 9 5 9	- 5, 4 1 6
合 計	5 7, 0 2 3	5 1, 5 9 3	- 5, 4 3 0

II 【事業の内容】

公 1 普及促進事業

1. 指導講習会の実施(定款第4条第1項(1))

①感染拡大に伴う会場閉鎖や安全への配慮からの自粛を余儀なくされ、活動は大いに制約を受けた。しかし、感染状況には地域的な差があり、マスク着用、3密回避、検温、手指消毒、換気を心掛けた上での講習会実施の努力がなされた。

	北海道	東北	関東	中部	関西	中国・四国・九州	合計
既存教室 R元年下期 (確定値)	63	263	2,806	647	782	451	5,012
R2年度増減 (※速報値)	-1	-7	-70	-15	-16	-16	-125
計	62	256	2,736	632	766	435	4,887

※ 各支部長申告のデータより算出しています。

② 受託講習会

コロナ禍における生徒数減少、感染防止対応などのため、各カルチャーセンターも活動休止・中止あるいは教室縮小を余儀なくされた結果、講師派遣も不活発となった。

2. 指導者養成及び資格・称号の授与(定款第4条第1項(2))

「自彊術」を後世に永くかつ正確に継承する為に、また安全かつ適切な指導による自彊術体操の普及を確保する為に、その原点である療法と体操を基礎から学ぶ研修会を実施し、その修練と研鑽による技量に応じて指導者資格を認定授与する。

(1)指導者養成特別研修会(「指導者資格・称号の授与等に関する規程」第5条)

■本部研修会

「準師範等研修会」に於ける検証・確認事項を、正会員をはじめとする現役指導者及び資格取得を目指す者に直接伝える研修を行う。安全かつ適切な指導を全国的に維持・確保する重要な研修会である。

① 「本部研修会 in 熱海」

第 109 回	令和 2 年 4 月 10 日～11 日
第 110 回	令和 2 年 6 月 19 日～20 日
第 111 回	令和 2 年 10 月 23 日～24 日

予定されたが、緊急事態宣言等新型コロナウイルス感染症対応の必要性から、宿泊を伴う研修を自粛し、全て中止とした。

② 「シニア本部研修会 in 熱海」(68 歳以上の、指導者をを目指す者を対象とする。)

第 14 回	令和 2 年 10 月 21 日～22 日
--------	-----------------------

予定されたが、新型コロナウイルス感染症対応の必要性から、宿泊を伴うため中止とした。

③ 「本部道場研修会」

東京を中心とする首都圏の会員を対象とし、年 10 回を 1 タームとする基準をもって実施する研修会であるが、深刻な感染状況の中、本部道場の全施設の完全消毒、マスク着用、検温、手指の消毒、換気、3 密回避の徹底を図りつつ、已むを得ない中止を除いて 6 回実施された。

■「総支部指導者養成所研修会」

各支部の中核となる指導者養成のために、総支部に於いて年 10 回を 1 タームとする基準をもって実施する。コロナ禍の影響により下表の実施結果となった。

総支部名	実 施 会 場	実施回数
東北総支部	福島市霞町 福島市市民会館	3～4 ※
神奈川県総支部	本部道場	5
中部総支部	名古屋市 アイリス愛知	8
関西総支部	吹田市 さんくすホール	4
九州・中国総支部	福岡市 警固神社	8
九州・中国総支部	北九州市 菅原神社	9～10 ※

※異なるコースにより実施回数に差が生じた。

■「地方特別研修会」

各支部の中核となる指導者養成のために各支部の要請に応じ、年 1 回随時実施する。

予定されていた 24 地域における研修会は、各地域の感染状況を慎重に判断することを基本に延期、再延期するなど移りゆく状況に翻弄されつつも可能な限りの努力を重ねた。しかし、3 波にわたる感染拡大のため中止の已むなきに至った。

(2) 上級指導者研修会(「指導者資格・称号の授与等に関する規程」第 6 条)

奥伝資格以上の指導者を対象とし、その指導技術、徳育(自彊術の精神)の更なる涵養を図り、後進指導者を養成する能力を養うと同時に、自彊術体操を日本の一文化として後世に伝承す

る気概を持つ人材を育成することを目的とする。

- ① **準師範等研修会**（31 動・療法についての技術、指導法、その他、指導上の要点の検証及び確認をし、その結果を指導者養成特別研修会における研修に反映させることにより、指導の全国的統一性、均質性を維持・確保することを目的とする。）

沖縄県において令和 3 年 1 月に予定されていたが、中止とした。

② **奥伝研修会**

- (i) 選抜奥伝研修会(将来、指導者養成特別研修会の講師となる者を養成することを目的とし、その候補者約 30 名は本部が選出する。)

本部道場において令和 2 年 4 月 14 日、10 月 6 日に予定されていたが、中止とした。

- (ii) 奥伝会(広く奥伝資格者を対象とする。)

沖縄県において令和 3 年 1 月に予定されていたが、中止とした。

③ **支部長研修会**

本部道場において令和 2 年 4 月 14 日、10 月 6 日に予定されていたが、本部より文書連絡を中心に代替した。

(3) **資格・称号の授与**(定款第 4 条第 1 項(2))

免 状	年 度	月	人 数	小 計
初 伝	令和 2 年	4 月	137 名	
		7 月	18 名	
		10 月	55 名	
	令和 3 年	1 月	105 名	315 名
中 伝	令和 2 年	8 月	73 名	73 名
奥 伝	令和 2 年	6 月	0 名	0 名
準師範	令和 2 年	6 月	1 名	1 名
師範	令和 2 年	6 月	0 名	0 名

地方区分別免状取得者分布は、下記のごとくとなった。

	北海道	東北	関東	中部	関西	中国四国 九州	合計
初伝	2	9	173	55	55	21	315
中伝	0	1	46	10	11	5	73
奥伝	0	0	0	0	0	0	0
準師範	0	0	1	0	0	0	1
師範	0	0	0	0	0	0	0

公 2 普及啓発事業

1. 自彊術に関する調査研究(定款第4条第1項(3))

自彊術受講者を対象に毎年実施されていた健康度測定調査(体力測定)及びパルスオキシメーターによる自彊術実施前後の「血中酸素飽和度変化」の継続的調査は感染を避けるため中止とした。

2. 自彊術に関する刊行物等の発行(定款第4条第1項(3))

① 機関紙「自彊の友」の発行

603,022部の発行となった。

令和2年度各号の主な記事は次の通りである。コロナ禍の中、本会理事・医学博士 関谷剛先生をはじめ、多くの方々から記事をお寄せいただき、対コロナ生活の参考とした。

4月号(530号)

- ・令和2年度予算総会よりご報告 ～賛助会費と本会事業内容について～
- ・立川朝日支部たより
- ・免疫力と自彊術 (理事 医学博士 関谷剛)

5月号(531号)

- ・～温故知新～ 後藤新平
- ・令和2年4月1日附初伝取得者名簿(137名)
- ・第10回健康度調査 ～新体力テスト～
- ・災害対応募金活動御礼とご報告

6月号(532号)

- ・大阪東支部たより
- ・緊急事態宣言の中、イキイキ!はつらつ! (静岡葵支部長 松井陽子)
- ・コロナごもりの中で (理事 幸村恵美子)

7月号(533号)

- ・公益社団法人自彊術普及会 第10回通常総会
- ・平成31年度(令和元年度)正味財産増減計算書
- ・今できること (豊川支部長 加藤由美子)

8月号(534号)

- ・コロナ撲滅 よーい、はじめ! (九州中国総支部長 宮本綾子)
- ・令和2年7月1日附初伝取得者名簿(18名)

9月号(535号)

- ・"命の道、乗田貞勝画伯
- ・令和2年8月15日附中伝取得者名簿(73名)
- ・STAY HOME (お試しオンライン自彊術、コロナ禍の中で)
- ・近藤芳朗先生メモリアル・レクチャー 義弟の死(心臓と脳)①
- ・コロナ禍の中で
- ・お試しオンライン自彊術

10月号(536号)

- ・～温故知新～ 十文字大元先生
- ・STAY HOME (自彊術の大切さ、コロナと人生の宝物)
- ・近藤芳朗先生メモリアル・レクチャー 義弟の死(心臓と脳)②

11月号(537号)

- ・名古屋支部たより
- ・令和2年10月1日附初伝取得者名簿(55名)
- ・STAY HOME (コロナと"オンライン自彊術、体操)
- ・近藤芳朗先生メモリアル・レクチャー 義弟の死(心臓と脳)③

12月号(538号)

- ・横浜支部40周年 導気令和でいきます
- ・朝食は食べた方がいいのか? (理事 医学博士 関谷剛)
- ・となりの教室訪問レポート
- ・STAY HOME (『ウイズ・コロナ』の中で!!)

1月号(539号)

- ・謹賀新年
- ・健康法の中の運動 (理事 医学博士 関谷剛)

2月号(540号)

- ・豊橋支部たより
- ・令和3年1月1日附初伝取得者名簿(105名)
- ・ワクチンとはそもそも何か (理事 医学博士 関谷剛)

3月号(541号)

- ・千葉県成田支部たより
- ・令和3年度予算総会よりご報告 ～賛助会費と本会事業内容について～
- ・STAY HOME (コロナ禍での思わぬ発見)

② 「リーフレット」の配布状況

リーフレットには、「自彊術」の歴史と効能・地域ごとの開催場所や主宰者名が記載されている。9,299部の配布となった。

③ 「自彊術の栞」の配布状況

栞には、「カリキュラム」「自彊術の心得」とともに、「入会に必要な事項」が記載されている。3,410部の配布となった。

④ 「公益法人化10周年記念誌」の発行

コロナ禍による本会財政状況への影響が予測困難であることから翌年度以降の実施とした。

3. webによる情報の公開(定款第4条第1項(3))

公益法人に要求される情報公開への対応及び社会への普及啓発のために、更なる充実を図る。コロナ禍に先立ってクラウド導入がなされていたため、在宅での一部業務遂行が可能となり、年度末事務処理をつつがなく行うことが出来た。

4. 公開講演会の実施(定款第4条第1項(4))

会員の啓発及び一般の方々への自彊術啓発を目的として、6月に講演会を実施する。
杉本八郎 先生（薬学・脳科学者、同志社大学教授、アルツハイマー型認知症治療薬開発）を予定していたが、実施を断念した。

5. 周年記念行事の実施(定款第4条第1項(4))

支部周年行事

- ・40周年が千葉県支部・横浜支部で予定されたが、千葉県支部：延期、横浜支部：記念誌発行となった。
- ・10周年が東松山支部・福岡南支部で予定されたが、それぞれ延期とされた。

6. 海外文化交流の実施(定款第4条第1項(4))

世界情勢に鑑み、指導者の派遣などの積極的な海外文化交流事業は下記(1)(2)を除き当分控えるものとし、

(1) ワシントン教室

中伝資格免状授与のため、2名の派遣を予定し、また、研修会参加のため5～6名の来日も予定されていたが、中止となった。

(2) 台湾教室

月1回の講師派遣を予定していたが、中止となった。

7. 近藤芳朗記念館における展示(定款第4条第1項(3))

自彊術体操の誕生・発展・衰退、そしてその復興の歴史に関する資料の収集と展示を通じて

自彊術の技術的精神的優秀性を啓発することを目的とする。

- ・事務局就業時間中、一般の方も常時見学ができる。(要予約)
- ・入館料は無料
- ・本年度入館者数 4 名

Ⅲ 【その他】

1. 会議(定款第 3 章以下及び 4 章以下)

(1) **総会**・・・・・・・・・・ ○決算総会 令和 2 年 6 月 10 日 本部第二道場

議題：平成 31 年度(令和元年度)事業報告・収支決算報告の承認及び
監査報告

○予算総会 令和 3 年 3 月 3 日 本部第二道場

議題：令和 3 年度事業計画の承認

令和 3 年度収支予算の承認

(2) **理事会**・・・・・・・・・・ ○決算理事会 令和 2 年 5 月 14 日 本部第二道場

議題：平成 31 年度(令和元年度)事業報告・収支決算報告の承認及び
監査報告

○予算理事会 令和 3 年 2 月 9 日 本部 3 階会議室

議題：令和 3 年度事業計画の承認

令和 3 年度収支予算の承認

(3) **支部主催会議**・・・・・・ 随時

本部よりの通達事項の遵守を目的に随時開催された。

2. 見舞金・義援金募金活動の実施

令和 2 年度は、コロナ禍に加えて、熊本県を中心に日本各地で発生した集中豪雨(7 月)・台風 10 号(9 月)・記録的な豪雪(12 月～2 月)・福島県沖地震(2 月)・宮城県沖地震(3 月)等の災害に見舞われ、残念ながら多くの会員の皆様が被災された。

本会「災害対応拠出金口座」には、全国の会員より 7 月豪雨指定分、指定なし分を合わせて、総額約 153 万円のご厚志が寄せられた。被災された皆様方の大きな心の支えとなっており、心より感謝とお礼を申し上げます。

執行理事会では、

(1) お見舞金として 約 1 0 4 万円

① 令和 2 年 7 月豪雨被害者 4 名

② 令和 3 年 2 月福島県沖地震被害者 6 2 名

(2) 義援金として 約 4 9 万円

① 東日本大震災みやぎこども育英募金

② 人吉市災害義援金(令和 2 年 7 月豪雨)

③ 福島県令和 3 年 2 月福島県沖地震災害義援金

④益城町災害対策本部（熊本地震）

への配布を決定し実行した。

3. マスコミに取り上げられた自彊術

本部

- ・厚生労働省の認可法人「中央労働災害防止協会」の機関誌『HIROBA』に
令和3年1月号より12月号迄掲載予定

山形県支部

- ・「米沢新聞」（米沢市） ～健康体操でリフレッシュ～中部コミセンに笑顔広がる
- ・山形郵和会報 自彊術の紹介

大宮支部

- ・ミニコミ誌(DO!SUL)「自彊術」で身体を整える（5月21日）
- ・埼東よみうり 誰でもできる健康体操 橋本綾子さん 町内外で自彊術指導

神奈川南支部

- ・タウンニュース（新年元旦号）自彊術紹介

石川県支部

- ・中日新聞（7月11日） 自彊術 毎朝欠かさず健康に

滋賀県支部

- ・BBC びわ湖放送 「アミンチュ」（7月21日、7月28日、1月19日）

京都洛中支部

- ・BBC びわ湖放送 「アミンチュ」（2月4日）

令和 2 年度(令和元年度)事業報告 附属明細書

令和 2 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行細則」第 34 条 3 項に規程する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和 3 年 5 月 20 日

公益社団法人 自彊術普及会

「国と特に密接な関係がある」公益法人への該当性について（報告）

「当法人は、国家公務員法等の規定に関し、国家公務員であった者が法人の役員として再就職する場合に事前に政府に届出を行うことが必要な「国と特に密接な関係がある法人」に該当しません。」旨の報告を、内閣官房内閣人事局内閣参事官（退職管理担当）宛に致しました。

平成 30 年 10 月 22 日

公益社団法人 自彊術普及会

令和2年度 決算報告書
令和2年度 貸借対照表

令和3年3月31日現在

公益社団法人 自彊術普及会

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	155,539,846	156,660,326	-1,120,480
未収金	2,646,117	106,117	2,540,000
前払金	1,100,000	0	1,100,000
前払費用	2,656,503	467,993	2,188,510
流動資産合計	161,942,466	157,234,436	4,708,030
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	30,105,000	30,105,000	0
基本財産合計	30,105,000	30,105,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	25,000,000	25,000,000	0
減価償却引当資産	107,000,000	107,000,000	0
新自彊術会館建設積立資産	149,000,000	149,000,000	0
特定資産合計	281,000,000	281,000,000	0
(3) その他固定資産			
建物	350,709,492	350,709,492	0
建物附属設備	17,097,820	17,097,820	0
構築物	1,053,982	1,053,982	0
什器備品	10,955,767	10,955,767	0
土地	267,724,687	267,724,687	0
減価償却累計額	-150,363,958	-142,129,840	-8,234,118
電話加入権	72,800	72,800	0
商標権	2,438,175	2,438,175	0
保証金	20,000	20,000	0
その他固定資産合計	499,708,765	507,942,883	-8,234,118
固定資産合計	810,813,765	819,047,883	-8,234,118
資産合計	972,756,231	976,282,319	-3,526,088

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	3,801,748	2,307,455	1,494,293
前受会費	38,999,500	50,015,000	-11,015,500
預り金	935,272	626,223	309,049
流動負債合計	43,736,520	52,948,678	-9,212,158
2 固定負債			
役員退職慰労引当金	28,965,000	27,284,500	1,680,500
退職給付引当金	2,299,756	2,631,664	-331,908
固定負債合計	31,264,756	29,916,164	1,348,592
負債合計	75,001,276	82,864,842	-7,863,566
Ⅲ 正味財産の部			
1 指定正味財産			
寄付金	30,000,000	30,000,000	0
指定正味財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(30,000,000)	(0)
2 一般正味財産			
一般正味財産	867,754,955	863,417,477	4,337,478
一般正味財産合計	867,754,955	863,417,477	4,337,478
(うち基本財産への充当額)	(105,000)	(105,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(256,000,000)	(256,000,000)	(0)
正味財産合計	897,754,955	893,417,477	4,337,478
負債及び正味財産合計	972,756,231	976,282,319	-3,526,088

令和2年度 正味財産増減計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

公益社団法人 自彊術普及会

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	120,000	120,000	0
② 特定資産運用益	27,501	23,053	4,448
③ 受取会費	162,915,000	176,548,500	-13,633,500
正会員受取会費	6,480,000	6,610,000	-130,000
賛助会員受取会費	156,435,000	169,938,500	-13,503,500
④ 事業収益	19,352,925	92,383,602	-73,030,677
講習会等実施事業収益	5,490,725	10,965,842	-5,475,117
指導者養成事業収益	7,174,200	63,456,460	-56,282,260
資格等授与事業収益	6,688,000	17,961,300	-11,273,300
⑤ 受取寄付金	250,000	655,000	-405,000
受取寄付金	250,000	655,000	-405,000
⑥ 雑収益	202,834	8,771,224	-8,568,390
総会・懇親会会費	0	8,676,000	-8,676,000
受取利息	234	474	-240
その他雑収益	202,600	94,750	107,850
経常収益計	182,868,260	278,501,379	-95,633,119
(2) 経常費用			
① 事業費	150,477,275	209,702,531	-59,225,256
役員報酬	24,497,730	22,772,280	1,725,450
給料手当	23,521,636	28,326,498	-4,804,862
臨時雇賃金	5,233,075	3,586,300	1,646,775
報酬謝金	8,979,700	25,495,100	-16,515,400
役員退職慰労引当金繰入額	1,219,367	816,944	402,423
退職給付費用	184,299	421,194	-236,895
退職給付金	300,000	410,000	-110,000
法定福利費	2,998,411	3,280,276	-281,865
会議費	1,854,330	8,605,925	-6,751,595
会場費	0	1,058,765	-1,058,765
研修会場費	2,132,500	12,794,690	-10,662,190
旅費交通費	6,876,859	16,560,092	-9,683,233
通信運搬費	10,493,337	9,592,865	900,472
減価償却費	7,276,587	7,216,251	60,336
什器備品費	0	398,998	-398,998
消耗品費	6,275,278	13,874,575	-7,599,297
修繕費	990,198	1,158,866	-168,668
印刷製本費	9,878,850	10,331,402	-452,552
渉外費	83,787	417,809	-334,022
光熱水料費	1,189,889	1,340,209	-150,320
リース料	431,957	356,390	75,567
保険料	352,095	432,254	-80,159
諸謝金	606,000	1,274,000	-668,000
租税公課	5,831,025	5,958,023	-126,998
インターネット費	15,136	340,062	-324,926
支払手数料	270,739	304,635	-33,896

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
委託費	4,129,800	3,881,972	247,828
事務委託費	23,677,050	27,294,600	-3,617,550
雑費	1,177,640	1,401,556	-223,916
② 管理費	28,053,507	40,740,791	-12,687,284
役員報酬	9,792,270	7,997,720	1,794,550
給料手当	3,999,156	7,499,022	-3,499,866
役員退職慰労引当金繰入額	461,133	254,556	206,577
退職給付費用	84,941	419,898	-334,957
退職給付金	0	100,000	-100,000
法定福利費	1,426,344	1,649,822	-223,478
福利厚生費	313,142	452,702	-139,560
会議費	1,041,022	8,340,285	-7,299,263
会場費	0	1,406,045	-1,406,045
旅費交通費	724,292	420,809	303,483
通勤費	632,974	1,237,380	-604,406
通信運搬費	1,097,924	1,130,771	-32,847
減価償却費	957,531	1,091,335	-133,804
什器備品費	367,255	271,540	95,715
消耗品費	304,483	348,463	-43,980
修繕費	51,700	1,502,393	-1,450,693
印刷製本費	467,475	371,520	95,955
渉外費	106,829	244,910	-138,081
光熱水料費	451,302	461,645	-10,343
リース料	91,627	80,362	11,265
保険料	23,088	19,906	3,182
諸謝金	0	20,000	-20,000
租税公課	1,535,480	1,049,592	485,888
支払寄付金	2,000	504,000	-502,000
支払手数料	82,496	88,926	-6,430
委託費	3,216,570	2,860,827	355,743
雑費	822,473	916,362	-93,889
経常費用計	178,530,782	250,443,322	-71,912,540
当期経常増減額	4,337,478	28,058,057	-23,720,579
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,337,478	28,058,057	-23,720,579
一般正味財産期首残高	863,417,477	835,359,420	28,058,057
一般正味財産期末残高	867,754,955	863,417,477	4,337,478
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	30,000,000	30,000,000	0
指定正味財産期末残高	30,000,000	30,000,000	0
III 正味財産期末残高	897,754,955	893,417,477	4,337,478

令和2年度 正味財産増減計算書内訳表

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

公益社団法人 自彊術普及会

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合 計
	普及促進事業 (公 1)	普及啓発事業 (公 2)	共 通	小 計		
I 一般正味財産増減の部						
1 経常増減の部						
(1) 経常収益						
①基本財産運用益	0	0	120,000	120,000	0	120,000
②特定資産運用益	0	0	27,501	27,501	0	27,501
③受取会費	0	0	81,457,500	81,457,500	81,457,500	162,915,000
正会員受取会費	0	0	3,240,000	3,240,000	3,240,000	6,480,000
賛助会員受取会費	0	0	78,217,500	78,217,500	78,217,500	156,435,000
④事業収益	19,352,925	0	0	19,352,925	0	19,352,925
講習会等実施事業収益	5,490,725	0	0	5,490,725	0	5,490,725
指導者養成事業収益	7,174,200	0	0	7,174,200	0	7,174,200
資格等授与事業収益	6,688,000	0	0	6,688,000	0	6,688,000
⑤受取寄付金	0	0	250,000	250,000	0	250,000
受取寄付金	0	0	250,000	250,000	0	250,000
⑥雑収益	0	190,950	234	191,184	11,650	202,834
総会・懇親会会費	0	0	0	0	0	0
受取利息	0	0	234	234	0	234
雑収益	0	190,950	0	190,950	11,650	202,600
経常収益計	19,352,925	190,950	81,855,235	101,399,110	81,469,150	182,868,260
(2) 経常費用						
①事業費	90,366,846	60,110,429	0	150,477,275	0	150,477,275
役員報酬	17,630,190	6,867,540		24,497,730		24,497,730
給料手当	19,116,956	4,404,680		23,521,636		23,521,636
臨時雇賃金	5,233,075	0		5,233,075		5,233,075
報酬謝金	8,979,700	0		8,979,700		8,979,700
役員退職慰労引当金繰入額	876,644	342,723		1,219,367		1,219,367
退職給付費用	152,669	31,630		184,299		184,299
退職給付金	300,000	0		300,000		300,000
法定福利費	2,443,044	555,367		2,998,411		2,998,411
会議費	1,810,722	43,608		1,854,330		1,854,330
研修会場費	2,132,500	0		2,132,500		2,132,500
旅費交通費	6,845,839	31,020		6,876,859		6,876,859
通信運搬費	2,760,019	7,733,318		10,493,337		10,493,337
減価償却費	6,051,029	1,225,558		7,276,587		7,276,587
消耗品費	3,416,926	2,858,352		6,275,278		6,275,278
修繕費	990,198	0		990,198		990,198
印刷製本費	182,350	9,696,500		9,878,850		9,878,850
渉外費	83,787	0		83,787		83,787
光熱水料費	996,474	193,415		1,189,889		1,189,889
リース料	296,349	135,608		431,957		431,957
保険料	307,277	44,818		352,095		352,095

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合 計
	普及促進事業 (公 1)	普及啓発事業 (公 2)	共 通	小 計		
諸謝金	20,000	586,000		606,000		606,000
租税公課	4,347,417	1,483,608		5,831,025		5,831,025
インターネット費	0	15,136		15,136		15,136
支払手数料	264,491	6,248		270,739		270,739
委託費	3,469,800	660,000		4,129,800		4,129,800
事務委託費	646,750	23,030,300		23,677,050		23,677,050
雑費	1,012,640	165,000		1,177,640		1,177,640
②管理費	0	0	0	0	28,053,507	28,053,507
役員報酬					9,792,270	9,792,270
給料手当					3,999,156	3,999,156
役員退職慰労引当金繰入額					461,133	461,133
退職給付費用					84,941	84,941
法定福利費					1,426,344	1,426,344
福利厚生費					313,142	313,142
会議費					1,041,022	1,041,022
旅費交通費					724,292	724,292
通勤費					632,974	632,974
通信運搬費					1,097,924	1,097,924
減価償却費					957,531	957,531
什器備品費					367,255	367,255
消耗品費					304,483	304,483
修繕費					51,700	51,700
印刷製本費					467,475	467,475
渉外費					106,829	106,829
光熱水料費					451,302	451,302
リース料					91,627	91,627
保険料					23,088	23,088
租税公課					1,535,480	1,535,480
支払寄付金					2,000	2,000
支払手数料					82,496	82,496
委託費					3,216,570	3,216,570
雑費					822,473	822,473
経常費用計	90,366,846	60,110,429	0	150,477,275	28,053,507	178,530,782
当期経常増減額	-71,013,921	-59,919,479	81,855,235	-49,078,165	53,415,643	4,337,478
2 経常外増減の部						
(1)経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	-71,013,921	-59,919,479	81,855,235	-49,078,165	53,415,643	4,337,478
他会計振替額	0	0	49,078,165	49,078,165	-49,078,165	0
当期一般正味財産増減額	-71,013,921	-59,919,479	130,933,400	0	4,337,478	4,337,478

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合 計
	普及促進事業 (公 1)	普及啓発事業 (公 2)	共 通	小 計		
一般正味財産期首残高				509,375,617	354,041,860	863,417,477
一般正味財産期末残高				509,375,617	358,379,338	867,754,955
Ⅱ 指定正味財産増減の部						
当期指定正味財産増減額				0	0	0
指定正味財産期首残高				30,000,000	0	30,000,000
指定正味財産期末残高				30,000,000	0	30,000,000
Ⅲ 正味財産期末残高				539,375,617	358,379,338	897,754,955

令和2年度 財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 投資有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券について、償却原価法は重要性が乏しいため採用していない。

(2) 固定資産の減価償却方法

① 有形固定資産

建物については、定額法によっている。

建物附属設備、構築物については、定額法及び定率法によっている。

什器備品については、定率法によっている。

② 無形固定資産

定額法によっている。

(3) 役員退職慰労引当金の計上基準

役員の退職慰労金の支払いに充てるため規定に基づく期末要支給額を計上している。

(4) 退職給付引当金の計上基準

職員に対する退職金の支払いに備えるため規定に基づく期末要支給額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額とその残高

基本財産及び特定資産の増減額とその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	30,105,000	0	0	30,105,000
小計	30,105,000	0	0	30,105,000
特定資産				
退職給付引当資産	25,000,000	0	0	25,000,000
減価償却引当資産	107,000,000	0	0	107,000,000
新自彊術会館建設積立資産	149,000,000	0	0	149,000,000
小計	281,000,000	0	0	281,000,000
合 計	311,105,000	0	0	311,105,000

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当)	(うち一般正味財産からの充当)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
投資有価証券	30,105,000	(30,000,000)	(105,000)	(-)
小計	30,105,000	(30,000,000)	(105,000)	(-)
特定資産				
退職給付引当資産	25,000,000	(-)	(-)	(25,000,000)
減価償却引当資産	107,000,000	(-)	(107,000,000)	(-)
新自彊術会館建設積立資産	149,000,000	(-)	(149,000,000)	(-)
小計	281,000,000	(-)	(256,000,000)	(25,000,000)
合 計	311,105,000	(30,000,000)	(256,105,000)	(25,000,000)

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額および当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額および当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	350,709,492	126,737,314	223,972,178
建物附属設備	17,097,820	12,172,301	4,925,519
構築物	1,053,982	832,265	221,717
什器備品	10,955,767	8,284,888	2,670,879
商標権	2,438,175	2,337,190	100,985
合 計	382,255,236	150,363,958	231,891,278

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価および評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価および評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	帳簿価格	時価	評価損益
第339回利付国債(10年)	30,105,000	30,657,000	552,000
合 計	30,105,000	30,657,000	552,000

6 支部組織の会計の合計

平成20年度より支部組織の会計を合計表示している。

支部が独立した会計単位となっていないため本部が支部からの会計資料を基礎にして決算を行い、本部会計と合計している。

7 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
役員退職慰労引当金	27,284,500	1,680,500	0	0	28,965,000
退職給付引当金	2,631,664	269,240	601,148	0	2,299,756

令和2年度 財産目録

令和3年3月31日現在

公益社団法人 自彊術普及会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金	・手元保管(本部)	運転資金として	146,404	
		・手元保管(各支部・57口)	運転資金として	5,314,551	
		<現金計>		5,460,955	
	預金	・城北信用金庫駒込支店	運転資金として	44,250,318	
		・三菱UFJ銀行駒込支店	運転資金として	1,204,422	
		・ゆうちょ銀行中里郵便局	運転資金として	313,378	
		・ゆうちょ銀行支部口座(57口)	運転資金として	94,617,756	
		<普通預金計>		140,385,874	
		・ゆうちょ銀行中里郵便局	運転資金として (26471)	9,693,017	
	・ゆうちょ銀行中里郵便局	災害支援金口座として (417841)	0		
	<振替預金計>		9,693,017		
	未収金	・講師料等の未収額	普及促進事業に供する講師料等の未収分	375,717	
		・研修会費の未収額	令和2年度中部総支部指導者養成所研修会会費	2,270,400	
前払金	・システム開発費の前払金	教場管理システムの着手金	1,100,000		
前払費用	・iPad (55台)購入費用	支部会議用機器の前払費用	2,000,130		
	・火災保険料等前払費用額	公益目的事業及び管理業務の用に供する前払費用	656,373		
	<その他計>		6,402,620		
流動資産合計				161,942,466	
(固定資産)	基本財産	投資有価証券	・第339回利付国債	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用している。	30,105,000
			<基本財産計>		30,105,000
	特定資産	退職給付引当資産	・定期預金	負債(退職引当金)に対応して引当された資産	15,000,000
			・普通預金	負債(退職引当金)に対応して引当された資産	10,000,000
			三菱UFJ銀行駒込支店		
		減価償却引当資産	・定期預金	減価償却累計額に対応して引当された資産	107,000,000
				三菱UFJ銀行駒込支店	
		新自彊術会館建設積立資産	・定期預金	資産取得資金であり、新自彊術会館建設目的のために積立られた資産	149,000,000
				三菱UFJ銀行駒込支店	
		<特定資産計>		281,000,000	
	その他固定資産	建物	・会館	公益目的事業及び管理業務の用に供しており、共用割合は66%:34%である。	33,527,726
			北区中里二丁目14-1		
		建物	・本部道場	公益目的事業の用に100%供している。	128,544,063
			北区中里二丁目12-3		
		建物(工事)	・資料館及び会館内装工事	公益目的事業及び管理業務の用に供しており、共用割合は82%:18%である。	10,214,228
			北区中里二丁目14-1		
		建物	・第二道場	公益目的事業の用に100%供している。	40,369,134
			北区中里二丁目14-3		
		建物(改修工事)	・資料館及び事務所の改修工事	公益目的事業及び管理業務の用に供しており、共用割合は31%:69%である。	5,023,066
			北区中里二丁目14-1		
		建物(補修工事)	・本部道場の外部補修工事	公益目的事業の用に100%供している。	6,293,961
			北区中里二丁目12-3		
		<建物計>		223,972,178	
		建物附属設備	・会館の空調・電気・昇降設置工事	公益目的事業及び管理業務の用に供しており、共用割合は50%:50%	88,129

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
	構築物	・本部道場・会館の看板交換工事	公益目的事業及び管理業務の用に供しており、共用割合は76%:24%	2	
		・第二道場の電気・ガス・給排水・冷暖房等設備工事	公益目的事業の用に100%供している。	1,129,700	
		・会館2F設備・電気・照明工事	管理業務の用に100%供している。	1,514,502	
		・会館3F電気工事・ミニキッチン等	公益目的事業の用に100%供している。	129,379	
		・本部道場空調機オーバーホール	公益目的事業の用に100%供している。	695,223	
		・本部道場地下倉庫棚設置工事	管理業務の用に100%供している。	164,654	
		・本部道場空調機オーバーホール追加工事	公益目的事業の用に100%供している。	1,203,930	
	<建物附属設備計>			4,925,519	
	・第二道場の舗装・排水工事、ネットフェンス・電動門扉	公益目的事業の用に100%供している。	221,717		
	什器備品	<構築物計>			221,717
		・家具	公益目的事業、管理業務の共用割合22%:78%	45,633	
		・コンピューターサーバー	公益目的事業の用に100%供している。	1,126,602	
		・組込金庫	公益目的事業、管理業務の共用割合22%:78%	48,917	
		・第二道場の電話設備・共同視聴装置	公益目的事業の用に100%供している。	1	
		・第二道場のインターフォン設備工事	公益目的事業の用に100%供している。	1	
		・絵画	管理業務の用に100%供している。	1,350,000	
		・会館2Fエアコン・ブラインド	管理業務の用に100%供している。	2	
		・会館1Fエアコン	公益目的事業の用に100%供している。	1	
		・会館3Fエアコン・換気扇	公益目的事業の用に100%供している。	1	
		・会館3F事務机・応接セット	管理業務の用に100%供している。	2	
		・AED 2台	公益目的事業の用に100%供している。	99,719	
		<什器備品計>			2,670,879
		土地	・95.70㎡(会館)	公益目的事業及び管理業務の用に供しており、	66,453,187
		土地	北区中里二丁目14-1	共用割合は66%:34%である。	
	土地	・131.23㎡(本部道場)	公益目的事業の用に100%供している。	109,410,000	
	土地	北区中里二丁目12-3			
	土地	・116.68㎡(第二道場)	公益目的事業の用に100%供している。	91,861,500	
土地	北区中里二丁目14-3				
<土地計>			267,724,687		
商標権	・自彊術に関する日本・中国・台湾の商標権	公益目的事業の用に100%供している。	100,985		
電話加入権	・電話加入権	公益目的事業の用に100%供している。	72,800		
保証金	・警備保障会社契約保証金	管理業務の用に100%供している。	20,000		
<その他計>			193,785		
固定資産合計			810,813,765		
資産合計			972,756,231		
(流動負債)	未払金	・アーク印刷	月刊機関紙印刷代等の未払額	1,252,849	
		・郵便事業	3月分後納郵便代	38,995	
		・北社会保険事務所	3月分厚生年金保険料他	344,046	
		・本部道場研修会	令和2年度研修会費休講分の返金	589,600	
		・中部総支部	令和2年度指導者養成所研修会（会場費等）	1,266,100	
		・中部総支部	令和2年度指導者養成所研修会（講師料等）	257,160	
		・日立ビルシステム	本部道場エレベーター修理代	52,998	
<未払金>			3,801,748		

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
	前受会費	・賛助会費 ・研修会費 ・賛助会費	令和3年度賛助会費の前受会費 令和3年度本部道場研修会費 令和3年度団体会費	35,953,500 3,036,000 10,000
			<前受会費>	38,999,500
	預り金	・王子税務署 ・ ・豊島区役所他 ・雇用保険料他	3月分 給与分源泉所得税 3月分 204条源泉所得税 3月分 住民税	281,113 12,252 275,100
			<預り金>	366,807
				935,272
	流動負債合計			43,736,520
	(固定負債)	役員退職慰労引当金	・役員退職慰労引当金	常勤役員の退職慰労金の引当金
				<役員退職慰労引当金>
		退職給付引当金	・退職給付引当金	職員退職金の引当金
				<退職給付引当金>
固定負債合計				31,264,756
負債合計				75,001,276
正味財産				897,754,955

監査報告書

令和 3 年 5 月 13 日

公益社団法人 自彊術普及会
代表理事 久保 穎子 殿

監 事 飯森 和也



監 事 平野 晶己



私たちは、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの令和2年度における会計および業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について理事からの報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 貸借対照表、正味財産増減計算書及び正味財産増減計算書内訳表並びに財産目録は、会計帳簿の金額と一致し、法人の収支状況及び財政状態を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上